

Hello, Kids!

特集:授業力を高める



東京都台東区立
田原小学校
瀬名波明子
先生



外国人観光客
が多く訪れる浅草に
あるという立地を
利用して子どもたち
が浅草の道
案内役に。



建築物の
セットも
子どもたちが
作っています。

巻頭言 まずは美味しい料理を!

大城 賢(琉球大学教授)..... 2

未知のものを知る楽しさ・学び合う楽しさを味わう英語活動をめざして

太田延良(静岡県御殿場市立印野小学校校長)..... 3

実践報告 異文化を感じられる英語活動にむけて

岩村鋭介(北海道札幌市立藻岩南小学校教諭)..... 4

YOU CAN DO IT!! ~子どもと一緒に英語を学ぶ~

高橋みゆき(京都府京都市立岩倉南小学校教諭)..... 6

Hooray ALT! Christopher Kato(千葉県我孫子市ALT)..... 8

Say "Hello" with Alison! 根本アリソン(福島県双葉郡大熊町 外国人英語講師)..... 8

まずは美味しい料理を!

琉球大学教授 大城 賢



私は、英語の授業は「形式(文法)中心から意味中心へ」の考え方を基本にすべきではないかと思っています。中学校や高校の授業を観ていると、依然として文法・文型・語彙などに重点を置いた授業が多いように思います。教科書には感動的な内容が盛り込まれていても、教師は、表面的な理解度をチェックするぐらいで、内容にはなかなか深く踏み込んでいきません。授業で行われるアクティビティも、どちらかというと指導した文法事項や文型の定着を狙ったものが多く、活動そのものに目的があるものは少ないように思います。そうになると、本来言葉の持っている「意味」に生徒の注意がむかなくなってしまう。結果的に、言葉はコミュニケーションの道具であるという意識もだんだん薄れていくことになり、英語の学習も面白くなっていきます。喩えて言うと、このような授業は、「食器についてはいろいろわかったけれど、その食器はいつも空だった」というようなものになってしまう。

小学校の英語活動をみると、「自分と同じ誕生日の人を探そう!」などのように、活動そのものに重点を置いたものがほとんどです。“When is your birthday?”と質問した子どもの耳は、次の瞬間「ダンボの耳」になっています。そして相手が自分の誕生日と同じ“October.”と答えようものなら跳び上がって喜びますが、違う月だと、すっかり落ち込んでしまいます。普段は何でもない“October”

が、とたんに子どもたちの喜びや落ち込みに直結する重要な「意味」を担った言葉となっていきます。

先日観た小学校5年生の授業では、担任の先生がGuess Who Gameを行っていました。担任の先生は、自分の写真の裏面を見せて生徒にヒントを出していきました。“She is 35 years old.”というヒントを出すと、その段階で答えがわかったのか、ある子が“Not 35. She is older, older!”と発言してクラスは大爆笑になりました。

これらの活動では、児童の関心は常に「意味」にむいています。限られた語彙や表現ではありますが、豊かなコミュニケーションが展開されています。喩えて言うと、紙の皿を使っていますが、そこには児童にとって大好きな料理がしっかり盛られているようなものではないでしょうか。

小学校では、紙の皿を使ってもよいから、まずは美味しい料理を楽しませ、中学校や高校では家庭で使う普通の皿から、レストランで使う様々な種類の皿へと使える皿を増やしていけばよいのではないのでしょうか。忘れてならないのは、料理があるからこそ皿が必要だということです。

未知のものを知る楽しさ・学び合う 楽しさを味わう英語活動をめざして

静岡県御殿場市立印野小学校校長 太田 延良



1. 御殿場市英語活動授業力向上プラン

御殿場市は小学校英語の導入に備えて、教員研修を計画的に進めてきました。印野小学校は2004年から2006年までの3年間、市の研究指定校として英語活動に取り組み(現在は高根小学校が市の研究指定校)、2007年と2008年は文部科学省の国際理解活動推進プランの拠点校として玉穂小学校・西中学校と共に活動しています。毎年授業公開や研究発表会を行い、夏季休業中には、御殿場市教育委員会学校教育課が主催する英語活動研修に参加してきました。研修は4日間生まれ、教員とALTがチームをつかって授業プランを練り、模擬授業を行って成果を確かめ合います。印野小学校は第1日目の研修会場を提供し、英語活動の進め方の工夫を発表し、参加者と模擬授業を行い、子どもたちが味わう楽しさや培われる力を伝えることに努めてきました。演習を中心とした実践的な研修は、Classroom Englishを習得し、英語だけで授業を進め、ALTを活用する力を備えた小学校教員を増やしています。

2. 国際理解は隣の子の理解から

2004年4月に静岡大学教授・白畑知彦先生の指導を受け、英語活動に対する印野小職員の認識をそろえました。

「隣に座っているクラスメートの理解から国際理解が始まる」「英語活動は言葉の楽しさから」「楽しさを見せるのは先生」「いい発音が目標ではない」「覚え込ませる必要はない」「大切なことは内容。目的をもった活動を」「ALTを有効に使う。英語しか通じないと思えば子どもが考える」「少しでも英語をしゃべったらほめる」

これらの示唆をもとに“Teaching English in English”の授業を実現することに取り組みました。必要に応じてClassroom Englishを習得し、子どもたちにわかりやすい語彙を厳選して活動を組み立てました。小学校教師は、言葉だけに頼らず、身振りや音などで簡潔に指示を伝える方法を体得しているため、比較的容易にコツをつかみまし

た。教師も子どもも言葉だけに頼れない不安がありますから、互いに理解し合おうとする緊張感や集中力は、言葉や身振りによる表現力を補い、学習活動を支える基本的な態度を育て、コミュニケーションを容易にしました。生徒指導の力は英語活動を円滑に進めるのに欠かせません。教師の温かい対応は、子どもたちの間に温かい言動を「再生産」します。相手からの問いかけに応じて自分のことを話すだけでなく、相手にも同じ問いを返して交流を深めたり、感謝の言葉を添えたりすることも自然にできるように努めています。当たり前のことをほめることも、子どもの心を開き、英語活動の楽しさを味わわせるために欠かせないことでした。

3. ORIGINALITY

2005年2月3日、最初の研究発表会が行われました。子どもたちがつくったSkitをもとに、ALTに節分の行事を紹介した後、様々な行事について“When”を使って会話を楽しみました。同一人物であるにもかかわらず、自校では見られない豊かな表情で活躍するALTの姿を目の当たりにし、ALTの活かし方を見直した参加者もいれば、英語だけで授業を進めたHRTを「外国人のように見えました!」と励ます参加者もいました。

英語活動を進めるうえで最も悩むのは「必然性のあるコミュニケーションの場の設定」「創意に富んだ本物の活動」です。そのことに重点を置いた研修が「未知のものを知り、学び合う楽しさ」を子どもたちに味わわせています。

2005年4月からはALTが常駐する恵まれた環境が実現し、子どもたちの状況をより把握できるようになったALTとHRTが共に授業改善に取り組むゆとりが生まれました。最大の悩みであった「必然性と本物の活動」はALTにとって重要な問題です。HRTの考えと対立することがありますが、議論の中から印野ORIGINALの授業アイデアが生まれています。

異文化を感じられる 英語活動にむけて

1. 国際理解教育と英語活動

私は平成14年度から16年度まで、在外教育施設派遣教員としてロンドン日本人学校に赴任していた。以下に紹介する本実践は、帰国した年に、英語活動の実践発表をする機会をいただいた際に発表したものである。

この授業を構築するにあたり、英語活動の中に国際理解教育の要素も色濃く含めていくことを重視した。英語活動でねらう目標をしっかりとおさえつつ、現地で得た生の写真や資料などを多く利用できる学習展開を考えた。そして、学習の中で、児童がロンドンに小旅行したような異文化体験ができる場を設定したいと考えた。

そのような授業を作り上げることが、在外教育施設の経験を多くの児童に還元し、自分の授業力を高めることにもつながると考えた。

2. 活動例(第3学年)

(1) 単元名 Hello, London!!(3時間扱い)

(2) 単元の目標

① 歌やゲームを通して、英語に親しもうとする。

動作をまじえて歌う曲である“London Bridge”や簡単な英語表現を使う“Hello!! London”ゲームを学習に盛り込んだ。体を動かすことで生まれるリラックスした雰囲気の中で、覚えた英語を自信を持って使う体験を通し、英語を使ったという満足感や達成感、英語に対する肯定的な見方を育てたいと考えた。

② ロンドンの地名や文化を知ることを通して、異文化に対する興味・関心をもつ。

「ロンドンクイズ」の活動を取り入れ、英国の様子を、現地の文化や生活を反映した写真で見ることにより、「なぜ違うのだろう」「ほかのことはどうなのだろう」といった、異文化への興味・関心が児童の中に自然に芽生えていくことを期待した。また“Hello!! London”ゲームの中にBIG BEN

などのロンドンの代表的な建築物や、TUBEといった交通機関など、ロンドンの文化に触れる機会を設けている。このことにより、児童がロンドンを身近な場所に感じたり、自国との違いを自然に意識する機会を作ろうと考えた。さらに、ゲームの最中に、英国の代表的な映画である『ハリー・ポッター』の曲を効果音として使用し、児童が英国を訪れているかのような雰囲気を作り、学習に向かう意欲がさらに高まることをねらった。

③ 簡単な英語の表現や単語を聞き取ったり、話したりすることができる。

自己紹介や、ものを受け取る際の英語表現を学習の中で何度も使う場面を設定した。必要感をもってくり返し使うことで自然に言語スキルが定着していくことをねらった。

④ 友だちやALTなど、他者と関わる活動を楽しむ。

挨拶ゲームや“Hello!! London”ゲームを取り入れている。このようなゲームで遊ぶ中で、友だちやALTと関わる体験を通し、言語スキル以外のコミュニケーションスキルの重要性に気づくとともに、人との関わり楽しさも感じてほしいと考えた。

(3) 展開(3/3)

児童の活動	教師の支援
1. “London Bridge”を歌う。	・ 歌詞カードを用意する。
2. 導入アクティビティを行う。 ・ “London Bridge”ゲーム ・ 挨拶ゲーム	・ 楽しい雰囲気ゲームが行われるようにする。
3. ロンドンクイズをする。 ・ 写真を見て、答えを考える。	・ ロンドンの特色を写真を使いながらクイズ形式で紹介する。
4. ゲームで使う英語の言い回しを練習する。	
5. “Hello!! London”ゲームをする。	・ 楽しい雰囲気ゲームが行われるようにする。
6. 学習の感想を言う。	



北海道札幌市立藻岩南小学校教諭 岩村 鋭介

本単元は3時間で扱った。クイズの内容は毎回変えたが、そのほかの活動の流れはほぼ同様である。

(4)ゲームの概要

“Hello!! London”ゲーム

- * 案内役①②と訪問役に分かれる。

(案内役①の役割)

- * TUBE 地点で訪問役を待ち、くじを引かせる。

(案内役②の役割)

- * 3か所の建物“BIG BEN”“TOWER BRIDGE”
“KING’S CROSS STATION”で待ち、訪問役とじゃんけんをする。負けたら、訪問役に建物名の入ったシールを渡す。

(訪問役の動き、役割)

- * 案内役①に、どこに行きたいかを伝える。

訪 : Hello. ○○, please.

案①: Here you are.(くじを渡す)

訪 : Thank you.(くじを引く)

- * やりとりを終えたら、くじを引く。希望の建物名と引いたくじの建物名が一致していれば、チケットをもらって訪問地へ進み、そこで案内役②とじゃんけんをする。一致しない場合は、再度並び、くじを引く。

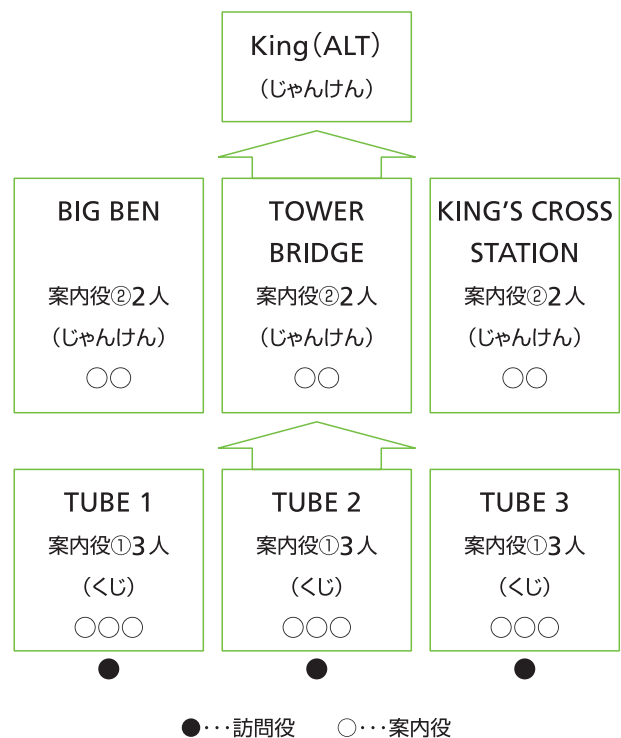
訪 : Hello. My name is ○○. Nice to meet you.

案②: Hello. My name is ○○. Nice to meet you, too.

訪案: Scissors, Paper, Stone.

- * じゃんけんに勝ったらその建物のシールをもらう。負けた場合には、もう一度並びなおし、案内役②とじゃんけんをする。

- * 3か所の建物のシールを集めたら、ALT扮する“King”に挑戦する。“King”に勝ったら勝ち。終わったら、何度でも遊べる。“King”に負けた場合には、またTUBEに戻って3か所の建物シールを集める。
- * 案内役と訪問役の入れ替えを3度行う。(5分×3)



3. おわりに

児童は学習後もロンドンや英国の文化について質問をしたり、自分で調べたりするなど、興味・関心をもった姿が見られた。ゲームの中でのコミュニケーション場面で、実際のコミュニケーション場面とできるだけ合った状況を作り出すよう工夫する必要があることも感じた。今後も、国際理解教育の目標と英語活動の目標を無理なく合わせていくことができるような学習を作り上げ、授業力を高めていきたい。

YOU CAN DO IT!!

～子どもと一緒に英語を学ぶ～

1. 当たって砕ける…

positive精神で行った初めての英語活動

第2回全国小学校英語活動実践研究大会の公開授業は、私にとって初めての英語活動の授業。今までの英語活動の授業と言えばいつもALTまかせで、自分も子どもたちと共に楽しむ時間というものだった。外国は大・大好きなのだが、英語が殆どだめな私は…海外旅行では、「紙をもらえますか。」を「It's a paper. It's a paper.」と言うありさま。そんな私が英語活動の授業をするの…?って感じ。とんでもないことだ。が、なにしろ私は、positiveな性格なので、「まあいいか、当たって砕ける。子どもたちと一緒に楽しく授業をしよう!」と決心し、当日を迎えた。

2. 授業に対する自分なりの取組み

●やっぱり、学級経営を大切に

子どものことを一番よく知っている担任だからこそできる英語活動。英語活動にとって有効なチャンツやゲームなどの活動がスムーズに行われるためには、教師の英語力以上に学級経営が大事になると考えている。担任だから、子どもたち一人ひとりをよく見つめ、子どもたちがどの活動で活躍できるのか、どんな活動をしたら一番いいのか等を考え、授業を組み立てていくことができる。共に認め合い、信頼しあえる学級経営を大切にしながら、英語活動に取り組んできた。

●教師自ら英語に親しむ

お風呂の中、通勤の車の中など授業に使うチャンツのCDを聞きながら… Do you like dogs?—Yes, I do./ Do you like cats? — Yes I do. / Do you like spiders?— No I don't. I don't like spiders.…なんて口ずさむ。また、好きな洋画を観ているときも、大好きなエリック・クラプトンやビートルズの歌を聴いているときも、常に英語を意識するようにした。

授業の中で少しでも英語で話せたらとクラスルームイングリッシュ(京都市小学校英語活動パイオニア研究グループ作成『教室で使える英語表現』)をチェックした。できるだけ覚えて、なるべくスムーズに使えるようにと心がけた。が、まだまだ問題があった。それは、ジャパニーズイングリッシュ丸出しの「発音」。どうすることもできない。そこで、朝の会に“English Time”と銘打って、子どもたちと教師と一緒に英語を楽しむ時間を設定した。実は、私が子どもたちの前で下手な英語を堂々と使えるようになるというねらいもあった。とにかく自信をもって、下手だけれど、恐れず英語をどんどん使っていくことにした。少しずつ少しずつ英語に慣れてきた。なんとかなるものだ!!

3. いよいよ、公開授業!

3年生「私の好きなもの」

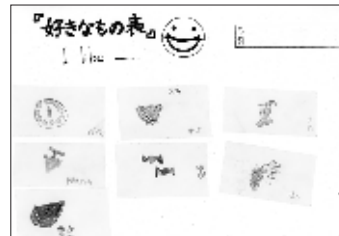
目標 「好きなもの表」を作り、自分の好きなものを友だちに伝える。

児童の活動	担任の活動	・指導上の留意点 ◎評価の観点<方法>
・挨拶をする。 Hello. How are you? I'm fine [good/ great]. Thank you.	・挨拶をする。 Hello, everyone. I'm fine [good/ great]. Are you good? Are you sleepy? Are you tired?	緊張する気持ちを抑えて、満面の笑み
・“Hello Song”を歌う。	・“Hello Song”を一緒に歌う。	・全員が歌に参加できるように、名前を言う部分は学校名やクラスを言うようにする。



<p>・担任の好きなものを知る。</p>	<p>・好きなものを、食べ物の絵カードを使って紹介する。 ・黒板に食べ物の絵カードを並べてはる。</p>	<p>・担任がいきなり自分の好きな食べ物を紹介するのではなく、前時にALTと学習した、食べ物を表す単語を児童自らが思い出せるように、食べ物の絵の一部を見せて児童にどんな食べ物か推測させながら紹介する。</p>
<p>・チャンツ “Do you like~?” を楽しむ。</p>	<p>・“Do you like~?” を実演しながら、 絵カードを指し、 リズムを取る。 Do you like~? Yes, I do. I like~. Do you like~? Yes, I do. / No, I don't. I like / I don't like~.</p>	<p>・チャンツの意味をよく理解できるように絵カードを見せ、ジェスチャーを大げさにつけて歌うようにする。</p>
<p>自信をもって 子どもたちと 一緒に楽しむ</p>		<p>大きな声で、 笑顔でDo you like~?</p>
<p>・「好きですかゲーム」をしながら「好きなもの表」を作成していく。</p>	<p>・「好きですかゲーム」のやり方をデモンストレーションで示す。 Do you like~?と聞いて Yes, I do.と答えたらそのカードを渡す。 ・「好きなもの表」を配り、作り方を説明する。 子どもへのほめ言葉は タイミングよく OK, Very good.</p>	<p>・デモンストレーションを見て活動の内容を理解し、「好きなもの表」を作る活動につなげる。 ・ Good [Great/Fine./OK]. などとほめることで、児童たちが英語を使う楽しさを味わうことができるようにする。 ・指導者が実際にやってみせることで、児童がこれからの作業がよりはっきりとわかりやすくなるようにする。 ◎自分の好きなものについて、友だちに伝えようとする。 【関・意・態】<観察></p>

<p>・友だちと好きなものを紹介しあう。 I like~. Do you like~?</p>	<p>・一番好きなものを紹介するように伝える。</p>	<p>・児童の様子を見ながら、英語の表現の仕方がわかりにくい児童には、もう一度ゆっくりと“I like~.”の表現を聞かせるようにする。 ◎友だちに好きなものについてたずねたり答えたりする。【表現】<観察></p>
<p>・“Good-bye Song”を歌い挨拶をする。</p>	<p>・“Good-bye Song”を歌い挨拶をする。</p>	



子どもの作った「好きなもの表」

コミュニケーション活動
みんなの前で「好きなもの表」紹介



4. 授業力を高めるために

今、自分の持っている英語力をできる限り授業の中で使うよう心がけているが、もっと英語力が高ければ、クラスルームイングリッシュは苦にならないはずだ。授業準備や実践を通して、自分の英語力をさらに高めていきたい。また、授業を進めていくうえで大切にしたい3つのポイント①子どもの目を見て②大きな声で③タイミングよく英語を使うということ(鹿児島純心女子大学 影浦攻先生より指導)を大切に、恐れずに英語を使ってみようとする子どもたちのよきモデルになり、子どもたちと一緒に英語活動を楽しんでいきたい。教師の英語力と共に認めあい、信頼しあえる学級経営があってこそ授業力が高まるものだと考えている。…やっぱり学級経営が一番かな?

Høray ALT!

What am I going to teach today? How can I make my lesson better? These are questions we have all asked ourselves. In this corner, I would like to share some ideas that have helped me answer these questions. In short, I try to keep three rules in mind when planning lesson. I call them the "three 「た」s."

(1) 「た」のしい

Any lesson, regardless of the subject, should be fun. Activities should be centered around the students' interests, they should be engaging, they should have movement and discussion.

(2) 「た」めになる

However, a lesson that is ONLY fun is of little value. Lessons need real life application so that students learn how the language is really used.

(3) はっ「た」つ段階に合っている

Having students do an activity that is too easy for them can be just as frustrating as a lesson that is too difficult. Lessons need to be age and level appropriate.

In the following issues I will discuss each of these three points in detail. Until next time!



Christopher Kato
(千葉県我孫子市 ALT)



Say "Hello" with Alison!

根本 アリソン

イギリス出身・1989年より福島県で英語講師として活躍中

■イギリスの春の香り~Spring in the U.K.~

昨年のSay Hello with Alisonのコーナーに引きつづき、今年は私の故郷イギリスの四季のイベントや行事を楽しく紹介します。今回は、「イースター」と「パンケーキデー」です。聞いたことがありますか?

長くて暗い冬の終わりを心待ちにしているイギリス人は、春のお祭り「イースター(Easter)」をととても楽しみにしています。イースターは、イエスの復活を喜ぶ行事でもありません。今年は3月23日(日)がイースターですが、年によって日が異なります。イースターと言えば、イースターエッグやイースターうさぎが思い浮かびます。卵は命のシンボルとして、古くから装飾に用いられてきました。たくさん子を産むうさぎも、繁栄・多産の象徴です。またイースターではエッグハント(Egg Hunt)というゲームが有名です。庭に卵を隠して「イースターうさぎはカラフルな卵をプレゼントとして庭においていくよ」と子どもたちに話し、それを探させます。お目当ての卵にはチョコレートエッグが使われることがあります。

もう一つの楽しい行事は「パンケーキの日(Pancake Day or Shrove Tuesday)」です。キリスト教では、イースターまでの40日間、レント(四旬節)という期間があります。信者の多くはレントの期間中つまみ食い食事で過ごす習慣があるので、レントが始まる前日は贅沢な食事ができる最後の日です。卵や油を使い切ろうと、どの家庭でもパンケーキ(薄いクレープのようなもの)を作って食べます。

イギリスの春の香りは子どもたちからもらう大きなチョコレートエッグとこんがり焼けたパンケーキの甘い香りです。

(福島県双葉郡大熊町 外国人英語講師)

小学校英語情報誌

Hello, Kids!

Vol.2-1 (通巻5号)

定価120円(本体114円)
送料80円

平成20年3月25日印刷 平成20年3月31日発行(年4回発行) 編集兼発行人 山岸 忠雄

印刷所 株式会社興陽社 〒113-0024 東京都文京区西片1-17-8

発行所 開隆堂出版株式会社 〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1

☎03(5684)6121(営業)、(5684)6118(販売)、(5684)6115(編集) <http://www.kairyudo.co.jp>



開隆堂出版株式会社

〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1 ☎03(5684)6111

北海道支社 〒060-0061 札幌市中央区南一条西6-11 札幌北辰ビル8階 ☎011(231)0403
東北支社 〒983-0043 仙台市宮城野区萩野町1-11-1 萩野町Mビル2階 ☎022(782)8511
名古屋支社 〒464-0802 名古屋市千種区星が丘元町14-4 星ヶ丘プラザビル6階 ☎052(789)1741
大阪支社 〒550-0013 大阪市西区新町2-10-16 ☎06(6531)5782
九州支社 〒810-0075 福岡市中央区港2-1-5 F Y C ビル3階 ☎092(733)0174